〔循環型社会･有機農業〕

山形県長井市

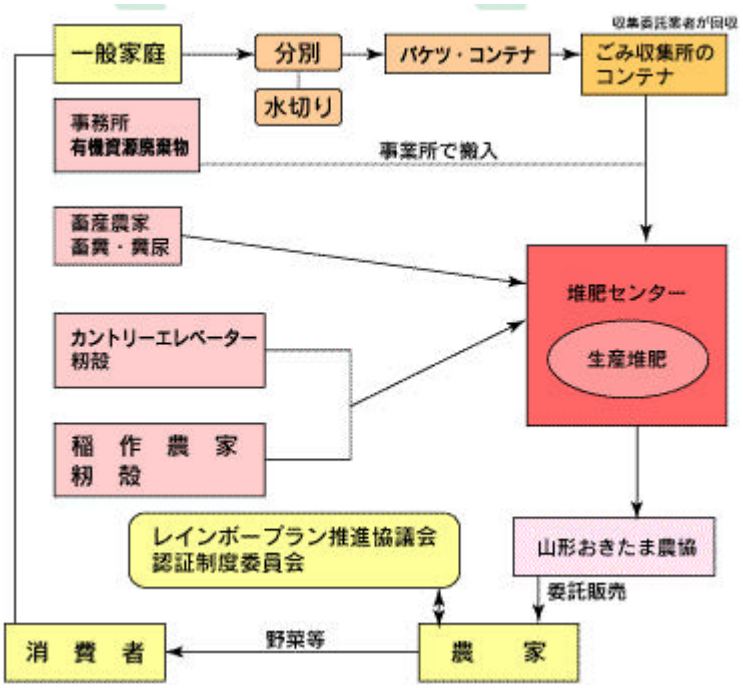
■都市概要

・置賜(おきたま)盆地の北部に位置する人口約 32000 人のまち。

■レインボープランの概要

農家と消費者が協力して地域循環システムを創り、有機資源のリサイクルを図ることで、自然環境の改善と健康な食生活を生み出し、自然と人間の永続的な共存を図ることが目的。

- 有機物の再資源化
- 優良堆肥の生産
- 独自の認証制度による農産物の生産
- 域産域消による農産物の流通
- 農業担い手育成
- 循環のまちづくりへの波及



・市全体で約 9,700 世帯の内、市街地の 5,000 世帯(約半数)がごみ収集の対象

・仕組みは、各家庭で排出される生ごみを専用の水切りバケツで分別し、ごみ収集ステーション(市内に 227 箇所)で週２回収集。回収車により、コンポストセンターに搬入(年間約 1,500 トン)。

・生ごみの収集方法については、紙袋方式にするかバケツ方式にするかで女性団体と行政がペアで試行実験を行い、分別がいかに徹底し、それがいかに持続するかの視点から、バケツ方式を採用。夜間の地区説明会などで協力依頼

・また、短期間の間に目標の 75%をしのぐ 100%近い 5,000 世帯もが参加しているのは、驚くべきこと(東京農大の調査)という指摘もあり

・トラックを３台導入しているが、夏場には回収頻度から臭いに対する問題も存在。腐敗を抑えるための水分抑制など一次処理システムの構築が課題。
・畜産農家から畜糞(年間約 500 トン)、稲作農家からもみ殻(年間　約 500 トン)を収集し、コンポストセンターに集められた生ごみと併せて、腐葉土などに含まれる地場の土壌菌により発酵処理し(好気性発酵)、堆肥を生産(年間約 500 トン)。つまり、2,500 トンの原料から 500 トンの堆肥が出来ている計算。１行程は約 80 日。
・できあがった堆肥は、320 円／15kg(家庭菜園向け)、4,000 円／トン(農家向け)で販売している。
・このレインボープランのそもそもの発端は、農家が農薬や化学肥料による農地の地力の衰えに危機感を持つ一方、域外出荷偏重による地場農産物の自給率の低下や輸入農産物の増加など、食物の安全性に対する危惧を抱いた消費者の双方の思いをつなぐためのアイデア探し。
・近くて遠い生産現場と消費者の距離を「土はいのちのみなもと」を合言葉に、一方は堆肥づくりのための「原料の生産者」、一方はまちの台所に届ける農業物の生産者という立場で循環の中の役割を担っていったのがこのプロジェクトの特徴。
・地区の生ごみ収集ステーションには、母子で生ごみを持ってくる光景がみられる。家庭内での学習、更には市内小中学校における環境学習や学校農地での栽培学習が盛んで、このシステムが持続する大きな要因であると思慮。
・独自の農産物認証制度による投入基準で堆肥がカバーできる農地は 50～100ha。現在、伐採木の利活用による堆肥化、未利用畜産堆肥の活用も含め、環境保全型農業を広げる取組みが始まっている。
・レインボープラン認証農産物は生産者の努力が反映される程の値段(1 割程度の高さ)であるが、直売、荷づくりの簡素化など、流通コストの軽減により消費者の負担の軽減が必要。
・堆肥を使用している農家からは、病気が減り、土が軟らかくなったという評価。
・現在は、家庭から出る一般廃棄物、学校給食の残飯のみを対象としているが、飲食店などの事業系生ごみや未収集地域の生ごみをどうしていくかは今後の課題。

■レインボープラン農産物認証制度
・レインボーシステムを一層推進するため、平成 11 年度より「レインボープラン農産物認証制度」を設け、「レインボープラン農産物」の差別化ブランド化を実施。

注：各種資料により首都機能移転企画課作成

長井市ホームページ（http://www.city.nagai.yamagata.jp/）